

# 五年生まれの小学生に聞きました

## 『ぼくの初夢』 わたしの初夢、

新しい年を迎え、今年の干支(えと)である丑(うし)年の小学生全員に「ぼくの初夢・わたしの初夢」を聞きました。

将来やってみたい仕事は？自分たちが大人になる10年後、積丹町はこんな町であつたらいいな…。

返ってきた答えは、プロ野球選手や保育士、パン屋など、どれも子どもらしい希望と元気にあふれるものばかりです。

子どもたちが未来に抱く大きな「夢」。それは、積丹町がいつまでも輝き続ける「希望」としてもち続けてほしいものです。



美国小6年  
野宮 隆生くん

「将来の夢はプロ野球選手です。もしプロ野球選手がだめだったらENEOSの野球チームに入りたいです。」



美国小6年  
佐々木 亨くん

「将来の夢は、新幹線の運転手になることです。たくさん勉強をして頭をよくして運転手になれるよう頑張ります。」



美国小6年  
白川 裕香さん

「わたしの将来の夢は保育士になることです。子供の面倒を見るのが好きだからです。勉強をして保育士になりたいです。」



美国小6年  
石田 直也くん

「将来の夢は、野球が大好きなので、野球を続けたいです。中学でも高校でも野球を続けてうまくなりたいです。」



美国小5年  
播磨 大吾くん

「ぼくの夢は、消防士です。理由はテレビを見て、カッコいいなあと思ったからなりたと思いました。消防士になって、町の安全を守りたいです。」



美国小5年  
藤田 啓克くん

「ぼくの夢は保育士です。理由はぼくは折り紙が得意だし、ピアノを習っているからです。それを生かして、子どもたちに教えていきたいです。」



美国小5年  
岩本 奈美さん

「わたしの夢はペットショップに勤めることです。理由は犬や猫が好きで、ペットショップにいと仕事をしながら動物のお世話ができるからです。」



美国小5年  
長島 真太郎くん

「ぼくの夢はプロ野球界に入ることです。野球は中学、高校になっても続けたいです。やってみたい守備位置はキャッチャーなので、肩を強くしたいです。」



美国小5年  
伊藤 優香さん

「わたしの夢は保育士です。小さい頃からとても憧れていました。保育士になったら、赤ちゃんから6歳までの子どもたちとたくさん遊びたいです。」



美国小5年  
畑谷 圭治くん

「ぼくの夢は、歴史学者です。理由はぼくは歴史が趣味で、大人になったらいろいろな歴史の謎を解き明かしたいからです。」



入舸小5年  
竹谷 四季さん

「わたしは将来、通訳になりたいです。外国語を話せるようになって、いろいろな国の人と仲良くなりたいです。わたしが大人になっても、自然がいっぱいの積丹町のままでいてほしいです。」

野塚小5年

三國 恭兵くん



「ぼくは、将来、考古学者になりたいです。なぜかという、小さい時から化石に興味があったからです。」

日司小6年

佐藤 舞裕さん



「わたしの将来の夢は、パン屋をつくることです。お客様のニーズにこたえて、たくさんパンをつくりたいです。」

入舸小5年

小原 百花さん



「わたしは将来、やさしい人と結婚して、かわいい赤ちゃんを産んでお母さんとお父さんに見せてあげたいです。将来、積丹町がきれいな花でいっぱい町になるといいなと思います。」

余別小6年

海老名聖也くん



「ぼくの夢は銀行員になることです。お金を扱う仕事は大変だと思うけど、だれかの役に立てればいいなと思います。」

余別小6年

木浪 りかさ



「わたしの将来の夢は、美容師です。来てくれた人を明るく元気にしてあげたいです。人を幸せにする仕事がしたいです。」

野塚小5年

原田 俊輔くん



「ぼくは、将来、自動車エンジニアになりたいです。なぜかという排気ガスを出さない車を開発したいからです。」

# 道内第1号の森林整備推進協定 国と積丹町が連携して森林整備を

国と町が連携して今後の積丹町内の森林の整備を進めるための「積丹地域森林整備推進協定」が(独)森林総合研究所札幌水資源林整備事務所・石狩森林管理署・積丹町の3者間で締結され、11月20日に総合文化センターで調印式が行われました。

この協定は、国有林と町所有の分収造林地が隣接する「余別」「婦美丸山」「婦美六地区」三区の合計1,020ヘクタールを整備の対象区域として、作業道の整備や利用、間伐作業などの保育事業を連携して計画的に行い、今後の町内の森林整備の円滑な推進を図ろうとするものです。

また、森林整備対象区域内の「余別団地」は、これまで余別川を横断して作業道を整備する方法しかなく、町では道内でも数少ない清流とされている余別川の自然環境に影響を与えない方法を模索していました。今回この協定によって余別川を渡ることなく、野塚、西河、来岸の奥地の国有林から連結

して作業道の整備を進めることができ、国有林についても、平成16年の台風16号による被害林再生のための整備を効率的に行うことができるようになります。

この協定は、積丹町のこれまでの官・民・地域ぐるみによる森づくりの実践活動の経緯を踏まえて、北海道で第1号の森林整備協定となりました。町では、これを契機に森林の保全活動を含めて国・道・町の森林行政の一層の連携強化の推進に役立てていきたいと考えています。

## 積丹地域森林整備推進協定調



左から瀬戸口署長(石狩森林管理署)、松井町長、米山所長((独)森林総合研究所札幌水資源林整備事務所)

